

## 白山北方

### 三方崩山・大ノマ谷

酒井 正裕 記

#### 《概説》

三方崩山は標高2000m程の山で、白山の岐阜県側の前衛峰に過ぎないが、快適なルートをもっている。代表的なルートとしては弓ヶ洞谷がその筆頭であるが、大ノマ谷も知られたものの一つである。

#### 《行動概略》

平瀬から大ノマ谷出合を経て頂上往復  
左に堰堤を見て、大ノマ谷に取り付く。

最初は雪が融けてところどころ地膚が出ている谷を雪を拾って登るが、直ぐにデブリで覆われた谷となる。下部からみた感じでは、谷のほとんどがデブリがあることから、滑れそうな所は少ないように思いながら、デブリを縫うように登る。

また、谷は頂上に向けてまっすぐ突き上げているので、晴れていればかなり上部まで様子が見えるはずだが、残念ながら雲に隠れて上部は見えなかった。

幸いに、やがて天候は徐々に回復に向かい、左側の尾根に発達した美しい岩峰を見ながらの登高となる。

やがて、谷の傾斜はきつくなるが、それを越えた標高1650m付近からはまた谷は少し緩くなり、一挙に稜線までの展望が開ける。

ここから稜線までの斜面は広大で素晴

らしい斜面である。稜線直下は地形図から推測するような岩場はみられず、真っ白な斜面が稜線まで続いている。ここはほぼ中央を登り、最低鞍部やや左の小さな尾根状を登る。稜線に出れば、頂上まで一投足である。

頂上を往復し、いよいよスキー滑降に移る。一番傾斜の緩い最低鞍部から滑り出す。少し急であるが、アルペン的な雰囲気の中で快適なスキー滑降が楽しめる。

谷の中間部は、デブリを避けて谷の右岸側を滑り、途中から左岸側に移り引続き滑る。だんだんデブリが多くなり、慎重にルートを選んで滑るが、標高1200m付近は谷全面に大きなデブリが出ており、スキーを脱ぐ。暫く坪足で歩き、また右岸を滑る。この先、更に1箇所スキーを脱いだが、出合までほとんど滑ることができた。

アクセスも良く、日帰りルートとしては秀でたものの一つだが、もう少しデブリが少ない条件で滑りたかった。

#### 【同行者】

鮎川正、横田進、吉田順一、酒井正裕

#### 【コースタイム等】

平成11年4月3(日)曇りのち晴

大ノマ谷出合(7:15)稜線(8:00)

頂上(8:30)稜線(滑り出し)(10:55

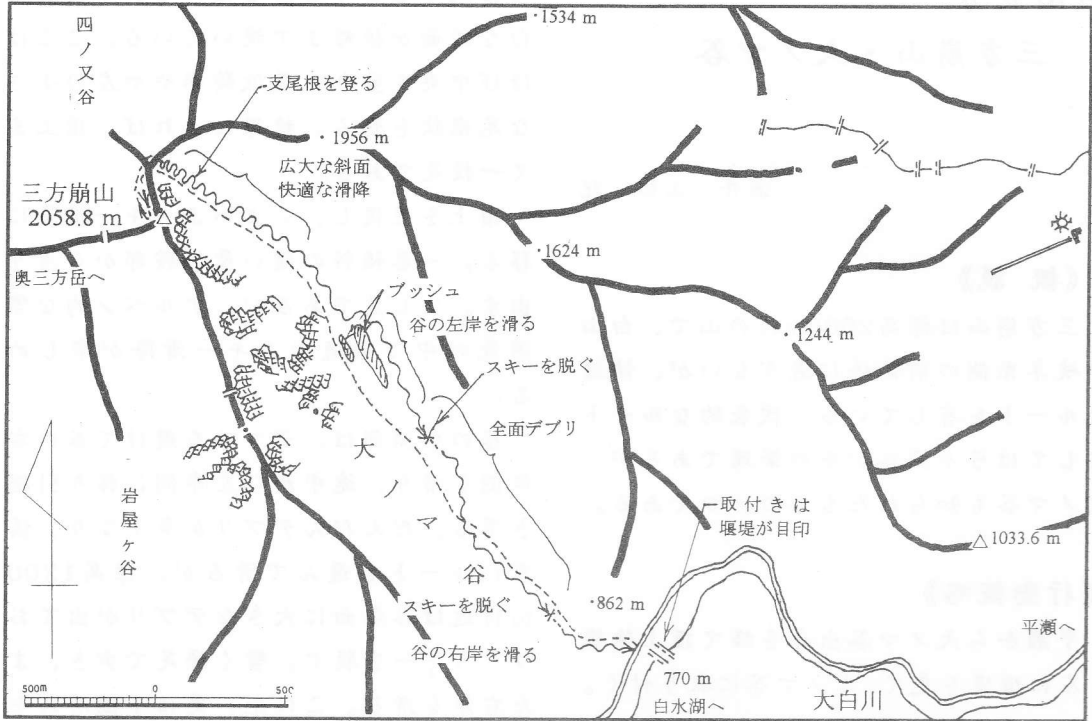
/11:25)大ノマ谷出合(11:50/12:10)

【山行適期】 3月下旬～4月上旬

#### 【1/25000地図】

新岩間温泉、平瀬

ルート図 白山北方・三方崩山大ノマ谷



ルート図 白山北方・三方岩岳白谷右俣右沢

